

聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校
2023年
12月22日発行
2学期終業式号 第266号

2学期の実り

年の瀬の慌ただしい日々、そのような折にこそ、流されずに日々の出来事に心を留め、生徒を丁寧に捉え、丁寧に^{あいたい}相對したいと思います。生徒たちが行動で、また言葉で、表情で、自身のことを語りたくなるようにと思う学期末の頃です。

平素は、聖母の小さな学校の教育にご理解、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。本校も、本日、2学期の終業式をいたしました。今学期は6名の生徒が在籍し、それぞれの歩みを進めました。それぞれ自分自身の不登校の状態を捉え、そこを出発点とし、自分の自立へのプロセスを歩みますが、自分自身の不登校の状態を捉えるということは、自分自身を見つめるということであり、真剣な作業になります。今までの卒業生が作ったスポーツフェスタのパネルに表れた言葉は「不登校という自分自身のありのまま」を捉えたものなのです。そこが整うと、生徒は自身の先が見えて能動的になります。10月のスポーツフェスタで自身の目標を、「聖母に毎日通う」と定めることができた生徒もその一人です。また、自由な意思でそれを設置していますので（即ち、自身の行動の積み上げの結果、自然に出てきた目標）、通うことができた、できなかった、を越えて、目標に向かうことができました。良い実りでした。

このように自分自身の自立へのプロセスを歩むことは、本人の喜びになります。また、保護者にとっても大きな喜びであろうと思います。学校に行けるようになったという目に見える成果があったわけでもないですが、目に見えない子どもの成長を捉えることができたのだらうと思います。保護者会で「子どもの成長は、私の生きる原動力です。子どもと一緒にやっていきます」と言われました。目に見えない小さな変化（成長）を捉える目を持つことは、親と子、共に喜びであり、励みになります。希望が湧いてきます。

さて、12月5日まで舞鶴市多世代交流施設「まなびあむ」で行われていた『聖母の小さな学校パネル展』、そして12月2日（土）のトークイベント『わが子の不登校とどう向き合ったか』も好評でした。保護者の飾らぬ「生の声」が社会に届いたと思います。「子どもがこの不登校という事態を懸命に生き、人生の上での生きる力を得てくれたことがうれしく、また、お陰で親も成長しました」と語られ、「子どもと真剣に向き合われた姿」を改めてお示しくさせていただきました。感謝申し上げます。また、パネル展の第2弾が舞鶴市教育委員会主催で市役所1階ロビーで開催していただいております。これも好評とのことで、1月中旬までの開催延長となりました。一人でも多くの方に足を運んでいただきたいと思います。

本学期も、小学生から20代の青年までの、本人・保護者の教育相談が述べ60件程ありました。原籍校との連携をとりながら進めた2学期でした。

また、多くの先生方にお世話になりました。感謝申し上げます。来学期もよろしくお願いいたします。

<今学期お世話になった先生方>

陶芸（高井 晴美 先生）	体育（渡邊 弘 先生）	華道（山中 知昌 先生）
音楽（北浦 弘治 先生）	数学（江宮 文夫 先生）	社会・校外学習（山下 正 先生）
ウズベキスタン文化（アシルベク先生）		保健（城永 千佳代 先生）
行事（大久保 喜基 先生・笠原 昌明 先生）	※3学期始業式は1月10日（水）9:30~11:00です。	



聖母の小さな学校パネル展
(in まなびあむ)



12/2 トークイベント
(in まなびあむ)